

## １．構成・期間

構成		計画期間	
		現計画	次期計画
基本 構想	目指すまちの姿（将来像）、 まちづくりの考え方	１０年	<u>１０年</u>
基本 計画	各基本施策における 現状と課題、将来に向けた 必要な施策の方向	５年	<u>５年</u>
実施 計画	基本計画で定めた施策を 実施するために具体的な事業	３年	<u>策定の可否も含め、 検討中</u>

## 2. 策定における考え方

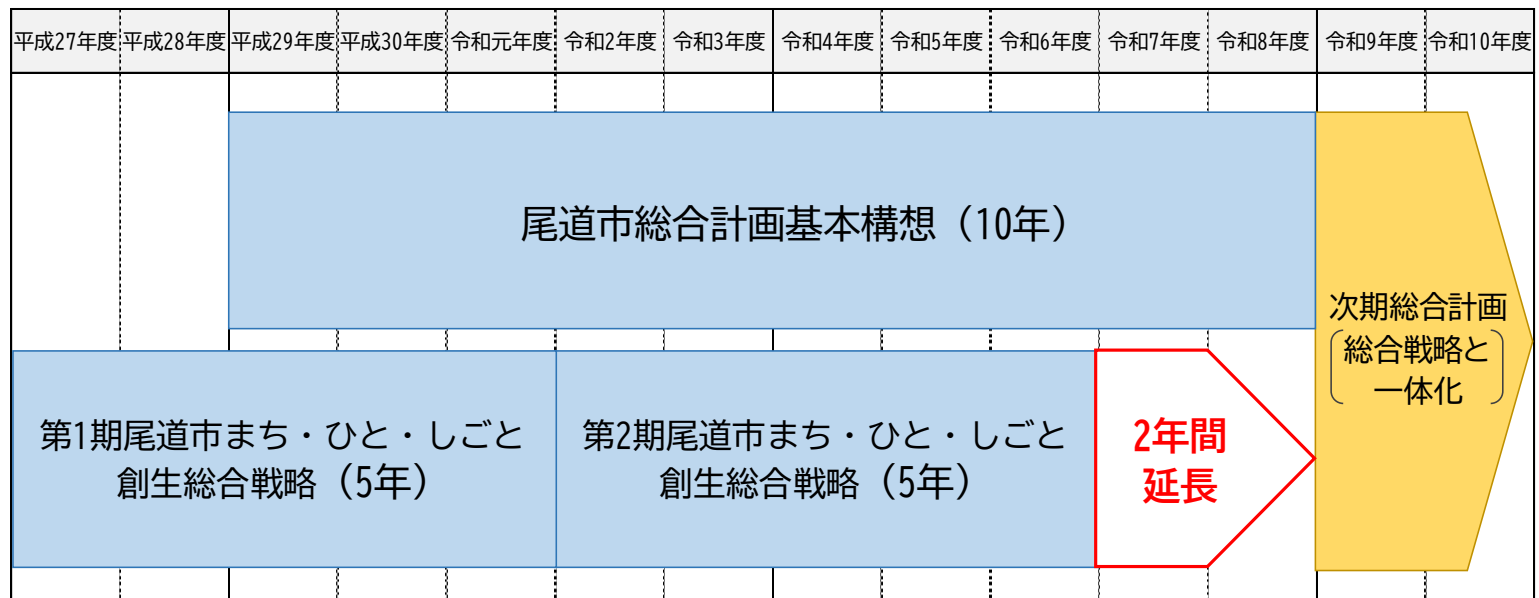
### （1）尾道の強みを活かした持続可能なまちづくり

- 人口減少や少子高齢化が進展する中、社会情勢の変化に対応しながら、「まち」の強みや魅力、将来の見通しや考え方（ビジョン）を戦略的に示す。

### （2）実効性のある計画

#### ①「尾道市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と一体化した計画の作成

- 総合戦略を総合計画の中に位置づけ、一体的に示す。
- 人口動向分析や将来人口推計も踏まえた内容とする。



## ２．策定における考え方

### （２）実効性のある計画

#### ②市民参画による計画策定

- 多様な市民参加の機会を設け、様々な市民や事業者等の意見を踏まえた計画づくりを行う。

#### ③成果を評価できる計画（個別計画との整合・一体化）

- 各種取組における目標を明確にして、目標の共有と的確な成果の評価につなげる。

## 3. 完成イメージ

（1）市民に分かりやすく伝える計画

（2）総合計画と個別計画の関係性が明確化され、市職員の共通認識が醸成される計画

- 政策分野ごとに、現状、課題、今後の基本方針、施策目標、事業を具体的に記載。
- 一方、文章量が多いため、読みづらく、興味を引きにくい？

政策目標 2 活発な交流と賑わいのあるまち

政策分野 1  
観光・交流

施策目標 1

観光消費が増えている

### 現状と課題

本市では、全国最多3つの日本遺産®認定や、しまなみ海道サイクリングロードの第1次ナショナルサイクルルート®指定、近年の訪日外国人旅行者の増加等を追い風に、平成21（2009）年以降、平成30年7月豪雨災害時を除き、観光客数は増加傾向で推移してきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、観光産業は大きな打撃を受けています。観光消費は地域経済に広く波及するものであり、雇用機会の創出等にとって重要であることから、観光需要の回復のための取組を段階的に進めていく必要があります。こうした中、平成31年（2019年）の尾道駅新駅舎の開業、市街地や瀬戸田地域における新たな宿泊施設の開業、令和2年（2020年）の観光型高速クルーザーの就航など、近年、民間投資が活発になっています。地域資源を活用したDX®の推進等により、観光サービスの改革と新たな観光需要の創出を図りながら、民間投資をさらに促進させ、地域経済を活性化させる必要があります。

また、日本遺産の活用や「SAVOR JAPAN（豊泊 食文化海外発信地域）®」の取組、千光寺公園内の施設のリニューアル等により、更なる国内外からの観光客の増加が期待される一方で、滞在（宿泊）型観光への転換や、観光消費額の増加への取組が課題となっています。観光客の受入環境の更なる向上や観光コンテンツの高度付加価値による、滞在時間の延長と観光消費額の増加を図る取組が必要です。

さらに、インバウンド®の回復も見据え、本市の強みである歴史や文化、風土を感じるまちなみや景観を保全、維持、向上させながら、次世代を先取りする新しいものとの融合を図る尾道独自の取組や情報発信が必要です。ホームページ、SNS®、アプリ等を活用したプロモーションを一層充実させるとともに、多言語案内ツールの活用、観光・サイクリングガイドの育成により、外国人観光客の受入体制の充実を図り、インバウンド戦略を確実に進めていく必要があります。

今後、「瀬戸内の十字路」の優位性を活かし、広域連携体制を強化するとともに、観光協会やしまなみジャパン（しまなみDMO®）、尾道市立大学等と連携して、観光・交流を軸とした地域づくりを戦略的に推進していく必要があります。さらに、観光産業を基幹産業に育てること、交流・関係人口®の増加、雇用の拡大、投資の促進という好循環を生み出し、地域経済を活性化させることが必要です。

### 基本方針

- 各地域の特徴を活かした観光による地域づくりを行うため、本市のブランド力の戦略的な活用を図ります。
- 地域経済を活性化させるため、コロナ禍からの早期の観光需要の回復と更なる賑わいの創出を図り、宿泊者の増加、民間投資の活発化、観光産業の振興を促進します。
- 観光振興による地域活性化のため、愛媛県今治市、上島町との広域連携による「しまなみジャパン」の円滑な運営を図ります。
- インバウンドの回復も見据え、観光戦略を優先に展開するため、DXの推進等による観光サービスの改革と新たな観光需要の創出に取り組むとともに、SNSやデジタルサイネージ®の活用等により、国内外に向けてまちの魅力を発信します。

## 施策

### 施策目標 1 観光消費が増えている

指標名	単位	基準値（令和2年度） [207（令和2年） [292（令和元年）]]	目標値（令和8年度）
観光消費額	億円 / 暦年		320

#### 目標達成のための施策

#### ① 観光まちづくりの推進

観光による地域づくりを行い、まちなかの賑わいの創出を図るため、DX®の推進等に取り組むながら、瀬戸内しまなみ海道のサイクリングコースや日本遺産®など、本市のブランド力を戦略的に活用します。

◆日本遺産推進事業（[関連リンク](#)）  
◆しまなみ海道イベント開催事業（[関連リンク](#)）  
◆観光バートナー養成事業 など

指標名	単位	基準値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)
総観光客数	千人 / 暦年	4,705 (令和2年) [6,826 (令和元年)]	7,103

#### ② しまなみジャパンの取組推進

しまなみ海道エリアの稼ぐ力の向上と国内外に広く認知されるしまなみブランドの確立を図るため、地域全体をマネジメントし観光戦略を実施する地域連携型DMO®組織「しまなみジャパン」の取組を推進します。

◆しまなみDMO形成推進事業（[関連リンク](#)）  
◆レンタサイクル事業 など

指標名	単位	基準値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)
サイクリング客数	千人 / 暦年	120 (令和2年) [217 (令和元年)]	233

#### ③ シティプロモーション®の強化

本市の観光地紹介、ホームページの再構築など、国内外に向けて、まちの魅力発信を推進します。

◆フィルムコミッション®事業（[関連リンク](#)） など

指標名	単位	基準値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)
尾道観光協会SNS®のファン数	千人	44	50

#### ④ インバウンド®対策の強化

国内外からの観光客の増加を図るため、外国人に対する観光案内所の機能強化や多言語対応を促進するとともに、外航船の誘致に取り組みなど、尾道水道の賑わいの創出を図ります。

◆外国人旅行者誘致事業（[関連リンク](#)） など

指標名	単位	基準値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)
外国人観光客数	千人 / 暦年	100 (令和2年) [341 (令和元年)]	341

#### ⑤「SAVOR JAPAN（豊泊 食文化海外発信地域）®」の取組推進（再掲）

#### ⑥ 観光基盤の整備

国内外からの観光客の増加を図るため、民間活力も活用しながら滞在（宿泊）型観光への転換を図り、「瀬戸内の十字路」®としての拠点性や日本遺産に認定された本市の特色を活用した観光拠点施設の整備を推進します。

◆しまなみ海道サイクリングロード施設整備事業（[関連リンク](#)）  
◆しまなみサクラ公園交流施設整備事業（[関連リンク](#)） など

指標名	単位	基準値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)
一人当たり観光消費額	円 / 暦年	4,405 (令和2年)	4,500

※参考：現計画（一部抜粋）